

**富山市総合計画審議会「第5回 協働・連携部会」
議事録**

日時：2016年10月25日（火）13:30～14:30

場所：富山市役所 第4委員会室

出席者：（順不同）

中村和之	富山大学経済学部学部長 教授（部会長）
今井壽子	NPO 法人花街道薬膳のまちを夢みる会理事長
大間知雄三	公募委員
上口勇三	大沢野地域自治振興連絡協議会会長
川田文人	一般財団法人北陸経済研究所理事長
吉田良雄	山田地域自治振興会会長

企画管理部	本田部長、西田次長、中田次長、前田参事、井村主幹
市民生活部	大森次長
財務部	立花次長
議会事務局	後藤次長

議事内容：

1. 開会
2. 第2次富山市総合計画前期基本計画（案）について

「第2次富山市総合計画前期基本計画（案）」の修正等について事務局より説明。

部会長

- ・ 事務局から説明のあった修正点について、ご意見・お考えがあればご発言いただきたい。

委員

- ・ 8ページに「地域活動の推進」ということで記載があるが、山田地域には地域おこし協力隊が2名入っている。富山市では公募を始めて半年後の10月になってようやく人が集まったとのことだった。氷見市や南砺市は給与16万円に加えて4～5万円の補助が支払われるが、山田地域の場合は補助がない。他の市町村と同じ給与水準でないと差別化されてしまうのではないか。
- ・ また、地域おこし協力隊の話にも関連するが、農林水産省に都市農村交流事業というものがある。給与は14万円と非常に安いですが、東京都出身の23歳が一人、山田地域に住所を移している。狩りをやりたいということだがお金がかかることも多く、苦労しているようだ。こうした人への支援、他の地域との差別化も含めて、市として検討してほしい。
- ・ エゴマの話があったが、収穫するためのコンバインが一台しかない。刈入時期は皆同じなので、複数の地域でコンバインを融通しなければならず、実はあるが去年の半分しか収穫できなかった。市として対策を検討してほしい。

部会長

- ・ いろいろな支援策があると思うので、ご対応いただければと思う。

事務局

- 地域おこし協力隊について、定住に向けて意思が固いということを伺って嬉しく思う。踏み込んだ支援については農林水産部とも協議して検討していきたい。山田地域は風景が非常に良い。地域おこし協力隊の方が持っておられる全国のネットワークも活用しながら、地域の魅力を発信していきたい。
- コンバインについては国の交付金で確保しており、地域外での柔軟な利用が難しい面もある。刈入時期が重なってしまうことについては、市でも調整方法を検討していきたい。

委員

- ・ エゴマのコンバインはいくらするのか。

事務局

- 1,000 万円近くする。

委員

- ・ 薬用植物の草よけも同様に高いものなのか。

事務局

- コンバインほど高くないが、作物の種類や栽培方法によって使用する機械が違うというように聞いている。今後、耕作面積を拡大していけるように検討を進めたい。

部会長

- ・ 複数の部会にまたがるような内容が多く、行政活動が高度化・複合化してきており、経営感覚のようなものが必要になってきていると感じた。縮小一方の行革だけではなく、ダイナミックに活動していくための組織のあり方についても検討していただきたい。こういった内容については 16 ページに記載されているが、ぜひ取り組んでいただきたい。
- ・ シングルマザーは圧倒的に貧困率が高いというデータがある。富山市の持続可能性を考える上でシングルマザーの問題は非常に重要であり、積極的な取り組みをしていただければと思う。

委員

- ・ シングルマザーや子どもに対する支援は重要だが、与えるだけにならないように気をつけなければならない。自分で立ち上がれるような力を身につけることも大事である。
- ・ 有機農業を進めたいと思っている。街中に小さな公園を活用した野菜づくりに取り組みもある。

事務局

- 2 年前までは都市公園法の規定で公園での野菜栽培はできなかった。しかし、高齢者の健康づくりにつながることもあり、富山市から要望を出して全国初の試みとして取り組んでいるところである。ただ、取り組みに当たっては、草むしり等、地域の方にご協力いただくことも必要である。現在は 6 ヶ所程度で取り組みが行われているが、わざわざその様子を見に全国から視察が来ていると聞いている。今後も担い手の皆さんと行政のコラボレーション事業として取り組んでいければと思う。

委員

- ・ トレッキングについて記載があるが、ファミリーパークにつながる木道をつくってはどうかという

話をしている。ぜひ相談に乗っていただきたい。

事務局

- 具体的なことは書けないが、構想にはそういった思いも入れている。ぜひ今後ともご協力いただきたい。

委員

- ・ 有機農業を進めるためには会員制の畑をつくらなければならないと思っている。薬膳の取り組みもしているが、なかなか難しい。その人の体の状況、天候等に合わせて作るのが本来の薬膳である。市では薬膳のお店を 100 軒ほど認定されたと聞いているが、こういった施策も有効に活用していきたい。
- ・ 富山市の健康寿命が 1 位になれば良いと思っている。神奈川県は黒岩知事が来てから健康寿命の延伸に取り組み始めたということだが、富山市でもそういった方向の取り組みがあると良い。

委員

- ・ 「行政と市民個人の協働」も重要だが、「関係する団体との協働」も重要である。ふるさとづくり推進協議会には各種団体が加入しているので、自治会も含めてタイアップした取り組みを検討してはどうか。現在のふるさとづくり推進協議会の取り組みは歴史や街の紹介等で、本来のふるさとづくり、まちづくりに向けて取り組んでいるかと言うと必ずしもそうではない。地区センター等が複数の機能を兼ねていることの問題もあると思う。ふるさとづくりを考えると、もう少し役割を持たせても良いのではないか。現時点の活動には行き詰まりもある。

部会長

- ・ 協働はプラットフォームが形作られていかないと機能していかない。行政にも大きな役割が期待されている。協働の実質化とも言うべき方向性が大事だろう。今いただいたご意見についても、事実としてご理解いただければと思う。

委員

- ・ 今回の計画にはやるべきこと・やったらいいことがたくさん書かれているが、ではどうやって実現するかという点が非常に難しい。最終的には行政の方がまとめるのだろうが、今後の詰め方について、また住民の皆さんにどう説明されるのか伺いたい。
- ・ 島根県の過疎地域では 1 %の改善運動が行われているそうだ。具体の計画は行政と地域の方が一緒になって策定しており、実際に成果も出ているということだった。富山市の計画でも、住民のやる気を引き出すような取り組み方法について検討いただけると良いのではないか。

部会長

- ・ 成果指標を置いているが、指標が改善されれば生活が良くなるかと言うと、実は難しい面もある。タウンミーティング等についても計画に記載されているが、実質化していくことが求められる。現在設定されている指標で十分かどうかということも含めて、行政はもちろん我々住民も関心を持って考えなければならない。

委員

- ・ 8 ページの「コミュニティの強化」についてだが、目標とする指標は公民館利用者数で十分だろうか。公民館利用者数が増えても町内会の活動が活発になったとは言えない。代替指標としてどのようなものがあるかと言うと思いつかないが、比較的新しく開発された地域では町内会活動そのものが難

しくなっていることもあり、対策を考えていかなければならない。

- ・ 14 ページにある「機運の醸成」は漠然としているように感じる。もっと具体的に、活動の活性化や行動につながるような仕組みづくりに取り組む必要があるのではないか。

委員

- ・ 寄附文化を広められればと思っている。市民が身体だけでなく、お金も出せるような仕組みができると良い。市として取り組むことは難しいだろうが、地域ごとに誰かがリーダーとなって取り組みを進め、地域の動きを市が認定できると良い。

委員

- ・ 11 ページの「自然の魅力」について、集落地域では道路が草に覆われて通れない場所も出てきている。今年度までは都市農村交流事業の補助金を使って草刈りをしてきたが、例えば、以前深道という集落があった場所への道等はこのままではなくなってしまう。山田地域では30日に「ぶらり散策」を開催するが、道が通れないので途中で引き返す予定となっている。上級コースはすでに潰れてしまっているし、初級コースも途中までしか行くことができない。山田地域にはまだまだ良いところがたくさんあるが、活用できるような状況ではない。

部会長

- ・ 他の部会でのご議論も含め、今日いただいたご意見についても対応を検討いただきたい。他の部会と関連する事項については16日に開催される調整部会で意見を出したい。

事務局

- 今後の日程については、11月28日（月）10:00より最後の全体会の開催を予定している。

以上